

2024年 在宅医療専門医試験結果報告

受験者数：60名（研修プログラムコース：28名、実践者コース：32名）

合格率（全体）：68.3%（研修プログラムコース：67.8%、実践者コース：68.7%）

総評：

全体的な合格率は7割を下回り、昨年（合格率：76.1%）より低い結果であった。今年度より1) 一次審査（ポートフォリオを含む書類審査）、2) 二次審査：筆記試験（MCQ試験）、3) 二次審査：WEB面接（ポートフォリオ面接）の三段階選抜による試験が採用され、それぞれの合格率は98.3%、96.6%、71.9%であった。

専門医試験では、在宅医療に関する基本的な知識・技能・態度、および一定の在宅医療の経験を有すること（在宅医療認定医の審査基準）以外に、地域の在宅医療に対して指導的な役割を担うことができる、学術的なアプローチができる、教育・指導を行うことができる、在宅医療のスペシャリストである等の資質が審査される。認定医と専門医の審査基準の違いを意識し、合格基準に達成するためのポートフォリオ作成と面接準備を十分にすることをアドバイスする（学会HPの認定医制度について要参照https://www.jahcm.org/doctor_system.html）。

昨年までみられていたプログラムコースと実践者コース受験生間での合格率の有意差はなかった。今年度より受験生を対象に「ポートフォリオ作成のポイント」の動画レクチャー配信し視聴を必須化したことにより、実践者コース受験生に対する学習支援に効果があったと考えられる。今後、実践者コース受験生に対して受験申請前に登録制を導入し、ポートフォリオ学習を管理し支援を継続していく予定である。

ポートフォリオ面接で不合格と判断された理由が多かったもの：

- ・ 医学的実践の質（標準的診療、ガイドライン等に基づいた診療など）が標準レベルに未達であると判断された。
- ・ 独断的な判断や、ひとりよがりな実践に陥っている可能性があるかと判断された。
- ・ フレームワークを適切に理解し、実践に落とし込めていない。
- ・ がん疼痛緩和に関する症例経験・臨床実践が少ないと判断された。
- ・ 専門医として十分な症例経験や実践が備わっていないことが疑われた。
- ・ 外来や病棟で担当した事例・症例を記載していた。
- ・ ご自身が主治医として担当していない事例を記載していた。

ポートフォリオ面接で不合格となり再受験を希望される方は、ポートフォリオの大幅なブラッシュアップ、およびポートフォリオ講習会の受講を強くお勧めします。